# 「大妻女子大学まちづくりの会」による地域児童への教育支援

厚東　芳樹　准教授
（家政学部　児童学科）

## 1. 本プロジェクトの目的

児童学科児童教育専攻では初年次教育の一環として、長年、地域の人と関わる活動を大切に実施している。その活動の中で、都会のど真ん中にある千代田区には、自然や公園が少なく、子どもが「身体を動かし遊び育つ環境」が少ないという大きな課題が浮き彫りになっている。とりわけ、千代田区の子ども達は身体活動量が少なく、立位姿勢の乱れや足育の遅れが経験的に多い傾向にあるものと考えられる。また、塾などを優先するあまり体験格差が生起していることも問題となっている。

今回実施するプロジェクトの目的は、そんな環境下で暮らす子どもたちの教育支援として、地域と連携して子ども達が定期的に身体を動かす空間と色々な体験ができる機会を創っていくことで、少しでも身体の乱れの改善につながる足がかりになることや色々な体験格差を縮小したいところにある。今年度は、「本学の文化祭を利用した縁日広場（PTA行事）の展開」「定期的な体育的活動の実施（月1回）」を実施することで、地域と連携して子ども達が定期的に身体を動かす空間や色々な体験ができる機会を創っていく活動を行った。

## 2. 本学の文化祭を利用した縁日広場（PTA行事）の展開について

令和6年10月26−27日の2日間で開催された大妻女子大学の文化祭の中で、子ども向けの縁日広場を実施した。具体的には、10店のブースを設置した（「ミサンガづくり」「ウオータービーズスクイーズ」「スマホストラップづくり」「バスボムづくり」「ブラ板キーホルダーづくり」「マグネットづくり」「スライムづくり」「踊る人形づくり」「レインボースティックづくり」「スーパーボールすくい」）。事前準備として、設置するブースの内容を決定する際には「大妻の児童学科らしさ＝理科的な要素を含めること」「本プロジェクトの研究目的を意識すること」の2点に気をつけて行った。このとき、1日100名の来場者を想定して必要な材料等を決定し代表者が集約する形とした。また、千代田内の複数の小学校・幼稚園・保育園に宣伝広告を配布して来場を手分けてして呼びかけるようにした。

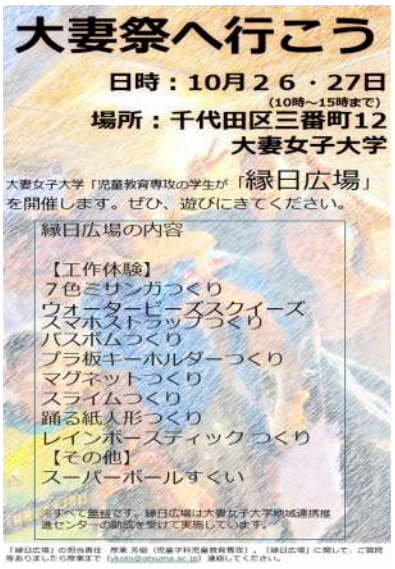


図１　縁日広場の告知広告

本番の文化祭では想定以上の来場者があり、初日の10月26日では2つのブースが終了前に予定していた数量を越えたため、翌日分のことを考え早めに終了するほどであった。2日目の10月27日も盛況であり、午前中のうちに1つのブースが終了したり、ほとんどのブースで材料を別途でかき集めるほどであった。

来場してくれた子ども達からは、「とても楽しい」「おもしろい」「こうやって、作ることができるんだ」などといった嬉しい声が


図２　縁日広場の当日の様子

聞こえてきた。また、保護者達からは「無料なので、とても有難いし楽しい」「お祭りだと高いのにこんな感じでできるのは勉強になった」「次から次へと、『やりたい』といいながら進んで行くから、連れてきてよかった。また来年もやってほしい」という声を頂戴しました。実際にブースを担当した大学生達からは、「直接、子ども達と触れ合える貴重な機会になった」「大変だったけど楽しかった」「科学的な遊びのひとつの方法がわかったのはよかった」など、実施者側にとっても貴重な場になっていた様子がみてとれた。

次年度に向けての反省点として、材料不足、学生間の連携が上手くいかない場面、本番当日に「踊る人形づくり」の人形が踊らないという事態が発生することがあり、準備不足な点はあった。

### 3. 定期的な体育的活動の実施について

令和 6 年 11 月頃から 1 か月に 1 回、大妻スポーツ教室を実施した。今年度は、元 WBC 世界バンタム級 1 位のビト・ライアン氏にも講師を担当して頂いた。大妻スポーツ教室は、「身体を動かし遊び育つ環境」という本プロジェクトの目的から、何かを教える時間というよりは子どもが自由に動き遊び回れる空間を大切に実施した。具体的には、「トランポリン」「バッティングコーナー」「サッカーコーナー」「跳び箱遊び」「マット遊び」「鉄棒遊び」「リズム遊び」「鬼遊び」ができる空間を準備した。実施した結果、毎回、参加してくださるご家族がほとんどとなり、参加してくれた子ども達からも汗だくになりながら「楽しい」「楽しみ」という嬉しい声を、保護者の方からも「ぜひ、来年度の日程が決まったら連絡してください」というお声を頂戴した。また、ビト氏が担当したボクシングエクササイズには保護者の方達も参加してくださり、いい汗をかけたと充実した様子もあった。

次年度に向けて、参加者の中には 3 歳の未就学児もいたため実施時間が 18 時から 20 時という遅い時間については検討してみたい点であるが、施設の問題上、難しい面もある。また、子どもを見守る大学生側の人数が不足すると安全管理上での不安はある。子ども 2 人に対して大学生 1 人が少なくとも事故を防ぐ人数配置であるものと考えられた。また、事前に事故が想定できる箇所の確認は必要であった。

また、当初予定していたオンラインでの講習については実施できなかった。これには、予定していた講師（スペイン）の地元が大洪水で被災し対応できないということから、今年度の実施は見送ることとなった。

### 4. まとめ

三番町町内会の懇親会に招待して頂き、その際に活動報告を簡単に行った。今年度の効果として、想定していた「本活動を通して、地域住民の生活環境の改善を図ると共に、地域とのつながり（地域住民・企業・学校・区役所）を強め・深めていくこと」「活動を通じて学生が地域とのコミュニケーションを図り、地域と関わることの大切さやその必要性を実感できること」「地域とのつながりを深めることができると共に、さらに地域に根付いた大学となるきっかけを作ること」についてはおおよそ達成できたのではないかと感じている。

「大妻女子大学まちづくりの会」と称してスタートした本活動について、活動初年度としては目標を達成できたものと考える。次年度以降、本活動がいかに継続できるかを意識しつつ、少しでもより良い内容へと高めていけるように取り組みを続けていきたいと考える。

告知等も含めて、本活動を支援して下さった大妻女子大学地域連携推進センターの関係者の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。